

相模湾地震災害状況放送劇シナリオ 1

地震発生 二〇××年十二月××日 午後五時××分

震源地 相模湾

震源の深さ 十六km マグネチュード七・九

震度 六強

避難場所 鵜沼中学校の体育館 震災発生直後 夜

時間 十九時〇〇分

気温 五度 晴

課題 避難所施設の安全性の判断。

状況設定

地震発生後、施設管理者が到着した時、町内会役員と避難者数人が校庭に集まっている。施設管理者が懐中電灯で建物外観を照らしたところ、壁や柱に亀裂が入っているように見える。

【ストーリー】

登場人物

藤沢市子（ふじさわ いちこ） 高校生・愛称チィーちゃん
母

山本 施設管理者 学校関係者で緊急時の担当者、学校施設の鍵を管理している

中島 町内会長で避難所リーダー

避難者

女 A 高齢者の家族がいる家庭の主婦

男 B 威勢がいい

女 C ペットと暮らす奥様

男 D 自営業の人

アナウンサーの声 防災無線の声 避難者大勢の声

夕暮れ時の居間。テレビのチャンネルサーフィンをしている市子、クリスマスソングが途中でバラエティー番組になり天気予報の「太平洋側は高気圧におおわれ、穏やかな一日となりました。この後も大きな崩れはない模様ですが、強い寒気の影響で夕方から急激に気温が下がり、山沿いでは雪のちらつく所が・・・」と言うアナウンスの途中で

母　チーちゃん！夕ごはんの仕度でつだって（と呼ぶ母の声）

市子　はい（天気予報の途中でテレビを消して台所に行く）わーっ！今日はお鍋なの

母　そうよ、その白菜きざんでね

市子　おまかせください

笑い声などして和やかな雰囲気。突然、ゴーツと言う地鳴りとともにガタガタと家が激しく揺れだす。

市子　キヤーツ！お母さん！

母　チーちゃん！チーちゃん！

台所の食器棚からたくさんの食器が飛び出し、床に落ちて割れる音。テレビやたんすが倒れたり、窓ガラスが割れる音が響き渡る。破壊音一段と高まりカットOFF（間）防災無線の「ピンポンパンポン」というチャイムの音。「こちらは、防災藤沢です。ただいま、湘南地方に強い地震がありました。余震の恐れがあります。屋内から退去してください。また、津波の恐れがありますので、海岸近くの人は、高台に避難してください。海岸には近づかないでください」の放送に重なるように、消防・警察等救急車両のサイレンが次第に大きくなりカットOFF。（間）

【市子のモノローグ】

私は、藤沢市子、高校生です。夕食の仕度を母としていたら、突然立

っていられないくらい大きな地震が来て、慌てて二人で外に飛び出したの。もう家のなかにはメチャメチャ、手のつけられない有様で、どうしたらいいのか分からなくて……。会社に行っているお父さんやお兄ちゃんは大丈夫かな、帰ってこれるのかな……。外は暗くて寒くなってきたし、家の中には怖くて入れないので、「何かあったら、避難場所でおう」って家族で話し合っていたから、母と二人で鵜沼中学校の体育館に来たの、でも途中の家はつぶれているし、停電で街灯はついていないし、道路には植木や石垣それにブロックの塀が倒れていて、ここまで来るのは大変だった。

学校の裏門は近くのお店が管理している合鍵で開けられていて、もう何人か校庭に集まっていたけれど、体育館には鍵がかかって入れないの、皆どうしていいのか分からないみたい。これからどうなっちゃうんだろ
う……。う。

「すごい地震でしたね!」「お宅はどうですか?」「海岸線は津波で相当な被害が出たそうだよ」等々ざわざわした避難者の話し声。

「体育館には入れないのか?」「この寒いのに、なんとかしてくれよ!」
等々不満の声。

そこへ、学校の避難所施設管理者の山本が、ようやく駆けつけてきた。

施設管理者山本 皆さん!私はこの施設の管理者ですが、到着直後なので施設の被害状況がよく分かりません、安全を確認するまで建物から離れて校庭の中ほどにお集まり下さい。

避難者、がやがやいいながら集まってくる。

避難者女A (イライラしながら) 母は年寄りなので、歩くのがやっとなの!

寒いから毛布を支給して下さい。早く体育館に入れて欲しいわ。

施設管理者山本 校舎の三階に毛布がありますが、そこまでいけるかどうか、建物の天井や壁の亀裂など確認しないと……。まず、体育館の安全確認をします、停電しているので懐中電灯を持っている人は協力して下さい。

避難者男B これからもっと人が集まってくるぞ、ここは何人ぐらい収容で

きるんだ。仮設テントや非常電源はないのかい。

施設管理者山本 仮設テントはありません。収容は三百人くらいです。

避難者男B (不満げに) どうなってるんだ、ここは緊急時の避難所なんだから。

町内会長の中島がやってくる。

町内会会長中島 山本さん、町内会の役員を見かけませんでしたか。

施設管理者山本 ああ、中島会長さん、私も今来たところなのでわかりません。体育館の安全を確認しないと、皆さんを中に入ることが出来ません。体育館の安全を確認しないと、皆さんを中に入ることが出来ません。町内で避難してくる人はどのくらいになりますか。

町内会役員中島 私にも予想が付きませんが、とにかく町内の人たちが安全に避難しているか確認しに来たんですが・・・。

避難者女C 何してるのよ！体育館は建っているんだし、コンクリートなんだから大丈夫よ。それより寒いから早く中に入れてよ。ワンちゃんがおびえているので、早く水を飲ませたいのよ。

避難者の声 「何やってるんだよ」「まだ体育館に入れないの」等々

町内会役員中島 とりあえずは施設内が安全かどうか確かめることが先決です。すね。

施設管理者山本 そうなんですけど、私だけじゃ無理です。

避難者女A 今集まっている私たちで確認しましょうよ。

避難者男B 施設の安全性って、短時間で確認できるのか？

避難者男D それを判断できる専門家は管理者が決めておくものだろう。

施設管理者山本 そうだ、会長さんの町内にある、工務店の人に判断してもらいましょう。

避難者女A それがいいわ、町内の建築の専門家を連れてきましょうよ、その人に点検してもらえばいいわ。

町内会役員中島 専門家が来ないと結果が出ないんじゃないや時間がかかってしまう。

避難者男D でも、専門家でもないのに、俺たちが安全性を確認するなんて責任重大だぞ。

避難者女C 体育館がつぶれたケースはないから大丈夫よ、寒いんだから早く入れてよ。

施設管理者山本 では、体育館の確認が終わるまで、昨年耐震補強した教室に入ってもらいましょう。

避難者女C 教室には椅子や机があるんでしょ、どうやって片づけるのよ。施設管理者山本 集まってきた方にお願いで片づけてもらいましょう。

避難者男B 寒いからとりあえず教室に入れるのはありがたいけど、後で体育館に移るっていうのも面倒だな。

避難者女A 元気な人達に頼んで始めましょうよ、母が年寄りなので、早く中で休ませたいの。

避難者女C 私も年を取っているのだから中で休みたいわ。それと何か食べものないかしら。私のワンちゃんもそうだけど、体調の悪い人たちには、冷えて堅い食べ物はのどを通らないので、お粥みたいな柔らかいものが欲しいわ。

町内会役員中島 ペットは嫌いな人もいるんだから、かわいそうだけど中に入れない。

避難者女C そんな！ペットも家族の一員なのよ！町内会役員中島 まずは、年寄りや子供のことを考えなくちゃ。教室の耐震補強を信じて中に入れてもらおう。

施設管理者山本 分かりました。で、点検のほうは工務店に頼みますか。

町内会役員中島 こんなに混乱しているんだから、探しに行くのが大変でしょう。暗いし寒さが厳しいから、もう待てません。

施設管理者山本 じゃ、どうするんです？

町内会役員中島 避難してきた人たちに声をかけてみますよ、分かる人がいるかもしれない。それに、構内の点検項目は、天井、壁、床の三点に絞ればいい。そうすれば五分くらいで出来ますよ。

施設管理者山本 そうですね。私も手伝える人がいないか、声をかけてみます。

避難者男D 私もやりますよ、役割を分担して下さい。

町内会役員中島 グループに分けて、手分けしてチェックをする。さあ、行動開始だ。

避難者男B 寒いから俺は中の調査をするよ、詳しいチェックは必要ない。さっさとやって、どんどん入れるべきだ。

避難者女C 体育館は大丈夫よ、教室への誘導なんて大変よ。体育館の方が暖かいしすぐに入れていいわよ。

施設管理者山本 体育館の中も電気が止まっているので、暖房は出来ません

よ。

避難者男D 病人や弱わっている人もいるので、一時的な点検確認が終わるまで校庭でたき火をしましょう。

避難者男B そうだ、町内会ごとに集まって火を燃やせばいい。焚き火をすれば暖もとれるし、明るくなる。

施設管理者 焚き火は良いですけど、火事にならないよう気をつけてください。

町内会役員中島 火をおこすっていったって、燃やすものはどうするんだ。

避難者男D 手分けして集めてきますよ。

避難者女A 早くグループ分けをして下さい。

避難者男D けがをしている人には応急処置が必要だ。体調の悪い人もいるようだから、早く体育館に入れてやってほしい。私たちは、皆で薪を集めながら、周辺の様子も見てくる。

施設管理者山本 分かりました、それでは建物の安全性を確認するためにグループ分けをします。三グループは建物の内部を調査します、一グループは外の部分の安全を確認して下さい。それから、町内会の役員の方は、町内会ごとの看板を立てて、後から来た人を整理して下さい。体育館の安全が確認されたら町内会ごとに場所を指定しますので、そこへ誘導して下さい。

町内会役員中島 それと、町内会ごとに避難者名簿を作成して情報管理者を決めましょう、ラジオや何かで情報を確認して、それで志願者が活動できるようにする。それから、町内会の看板に集まった人に聞いて、体育館までの道筋の災害状況も確認しよう。

「よし、わかった」「〇〇町内会の人は集まってください」等々呼びかけながら各自積極的にグループに参加して行動してゆく。
近くを緊急車両がサイレンを鳴らして通り過ぎてゆく。

【市子モノログ】

初めはどうなる事かと思ってたけど、やる事が決ったら、みんな協力し合っ
て行動している。だんだんと避難してくる人も増えてきているし、これからは
大変なんだろうな。私も何かお手伝いしなきゃ。

校庭のざわつき、再会できて喜び合う声、少しずつ落ち着き始めた避難所。遠くではサイレンの音が断続的に聞こえている。

ストーリー1終わり

地域発防災ラジオドラマ

現状とドラマ（フィクション）との相違点

● 二〇〇九年現在、藤沢市には市内の公立学校等を中心に八十一か所の施設が避難所として指定されています。一定の規模以上の災害が発生すると各避難所にはあらかじめ担当が決められた市職員（複数名）が駆けつけ、避難所開設の準備をはじめます。このドラマでは停電して暗い中、あえて担当者が駆けつけられない（何らかの事情が発生した）と想定して、避難所担当職員がいない中で住民だけでどうするかを協議するシーンを作りました。

● 市内の公立学校については、おおむね耐震性が確保されている状況にあります。鶴沼中学校も耐震補強が完了してはいますが、いくら耐震補強があっても、施設に入る前には安全性を確認する何らかの行動があり、かつそこには地域の協働関係が象徴されると考えて、あえて議論されるシーンを作りました。なお、藤沢市の避難施設マニュアルには簡便な安全性チェックシートも用意されています。実際のシナリオワークショップでは、建物に少しでも不安があるときは、校庭で待機するほうがよいという意見が出たグループもありました。

● ドラマではわずかなシーンですが、ペットと離れられないと主張する住民と、避難所の関係者のやり取りが描かれています。ほとんどの避難所運営マニュアルではペットの持ち込みは原則禁止となっています。アレルギーがある人や動物が苦手な人がいる現状にかんがみて、避難所内にペットを自由に持ち込める状況にするのは難しいと思いますが、地域で何らかの工夫が出来ないか、事前に検討しておくことは可能だと思えます。柏崎市ではペットと離れたくないという住民のために、避難所となった学校の駐車場に停めた車の中に入れたという事例もあるようです。藤沢市ではペットを専門に扱う事業者との協定を結んでいるところもあります。

● ドラマでは避難所運営組織の各役割が決まっているので、組織は順調に動い

ている形に描かれています。実際にはこの舞台となった鶴沼中学校地区の避難所運営体制の組織化は、まだ緒についたばかりでドラマ制作時点では個々に役割があらかじめ決められているわけではありませんでした。鶴沼中学校地区防災連絡協議会では平成二十二年三月に避難所設営訓練を実施し、実際の場面になったら現場でどのような課題が生じるかを、実際に体で動かして検証・確認することが決定しています。

災害時の公的支援を効率的に行うためにも、避難所の実情をその都度、市の対策本部に送り、状況認識を共有化しておくことは重要です。誰がどこにいるかがわかれば、被災地外からの連絡や安否確認の際には大変都合がよいといえます。しかし最近の個人情報がらみのトラブルにかんがみて、住民の中には本当のことを書きたがらない人が出てくるかもしれないと考えてこの課題を設定しました。町内会・自治会で名簿が作成されていない（作成が難しい）地域が増えていくようです。藤沢市の避難施設運営マニュアルには書式が定められていますが、そこに項目があるからすべて埋めると考えずに、それぞれの項目がなぜ必要かを住民自身で考え、判断することが重要であると考えられます。

鶴沼中学校地区ではいわゆる戸建て住宅からなる町内会・自治会だけではなく、一部のマンションの管理組合からなる自治組織が参加した形で防災連絡協議会を構成しています。防災連絡協議会に加入している自治会、管理組合の関係者間の合意形成には問題がないと思われませんが、地域のすべての共同住宅の居住者が参加しているわけではありません。したがってここで議論されたようにマンションによってはほとんど交流がないところも存在しています。

藤沢市では地域内住民を主体として、災害時のボランティア活動を支援するための組織藤沢災害救援ボランティアネットワーク（FSV）が活動しています。ここで取り上げたような課題の解決のためにも地元で活動するボランティアコーディネーターとしての役割が期待されます。